

# 農業簿記検定

## 教科書 **3** 級

一般社団法人 全国農業経営コンサルタント協会  
学校法人 大原学園大原簿記学校



大原出版



## はじめに

シャウプ使節団日本税制報告書において、当時の農業者は、申告納税者の部類に入っているが、実際は自分で申告納税することは殆どないこと、また、農業者の純所得は、税務署の管轄する地域内の各種の土地に対して、税務署が設定した標準を基礎として推計されている旨が報告されています。

このように、昭和50年代までは経営面積から10a当たりの所得を推計して課税する「反別課税」がなされており、農家には、帳簿記帳の必要はありませんでした。その後、農家に対する課税は、入金課税、収支計算と変遷し、現在は、複式簿記による青色申告決算書を作成する農家が増えています。また、最近では、集落営農の法人化や、個人事業から法人経営への転換、異業種企業からの農業参入等、農業簿記による計数管理を通して、近代的な農業経営を確立する必要が高まっています。

私ども「一般社団法人 全国農業経営コンサルタント協会」は、平成5年8月に「全国農業経営コンサルタント協議会」として発足し、平成22年4月に一般社団法人化いたしました。当団体の目的は「我が国農業が国民経済の発展と国民生活の安定に寄与していく為には、効率的且つ安定的な農業経営を育成し、これらの農業経営が農業生産の相当部分を担うような…農業者の経営管理の合理化に、税務・会計・経営の専門家集団（税理士、公認会計士）として、農業の健全な発展に寄与すること」です。今回「農業簿記検定教科書3級」を出版するにあたり、この本が農業者、JA職員等の直接農業に携わる方々だけでなく、農業に関心を持つ方々に少しでも農業簿記を理解していただく一助になれば幸いです。

平成25年3月

一般社団法人 全国農業経営コンサルタント協会  
代表理事 西田 尚史

## 農業簿記検定教科書

## 3級

## 目次

第1章 農業簿記の概要	1
(1) 簿記とは	2
(2) 簿記の種類	2
(3) 農業とは	2
(4) 農業の特徴	2
(5) 農業簿記の目的	4
(6) 会計期間	4
(7) 経営成績	4
【参考】収益・費用	5
(8) 財政状態	9
【参考】損益計算書とキャッシュフロー	10
【参考】貸借対照表・損益計算書とお金の流れ	11
第2章 簿記一巡の手続き	13
(1) 取引とは	14
(2) 仕訳と転記	17
(3) 仕訳帳と総勘定元帳	22
(4) 伝票による仕訳と総勘定元帳への転記	26
(5) 主要簿と補助簿	27
(6) 試算表の作成	28
第3章 勘定科目	33
(1) 農業簿記の勘定科目	34
(2) 農業経営と勘定科目	36
第4章 収益・費用の記帳方法	39
(1) 収益と費用	40
(2) 農業特有の会計処理	41

第5章 流動資産および流動負債など	47
(1) 流動資産	48
【参考】 定額資金前渡制度	50
(2) 流動負債	66
(3) 固定負債	69
(4) 資本金	70
第6章 固定資産	71
(1) 有形固定資産	72
【参考】 減価償却の考え方	72
(2) 修繕費と資本的支出	75
(3) 有形固定資産の売却	76
第7章 決算書の作成	79
(1) 決算書作成までの手順（一連の手続き）	80
(2) 決算の具体的手続き	81
【参考】 貸借対照表・損益計算書への表示（直接法）	89
【参考】 貸借対照表・損益計算書への表示（間接法）	90
■ 農業用固定資産の耐用年数の例	91
◇農業簿記勘定科目◇	116
◇参考文献◇	120
◇さくいん◇	121

**【掲載内容に関するご連絡】**

本資料は見本教材としてご案内しておりますため、「第6章 固定資産」のみ掲載しておりますこと、予めご了承ください。

第1章 農業簿記の概要

第2章 簿記一巡の手続き

第3章 勘定科目

第4章 収益・費用の記帳方法

第5章 流動資産および流動負債など

## 第6章 固定資産

第7章 決算書の作成

## (1) 有形固定資産

農業における有形固定資産は、経済活動のために長期にわたって使用される資産である**減価償却資産**、**非減価償却資産**と、将来、経済活動に使用するために育成中の生物、果樹などの生育に要した費用を蓄積する資産である**育成仮勘定**とに区分されます。

### 1. 減価償却資産

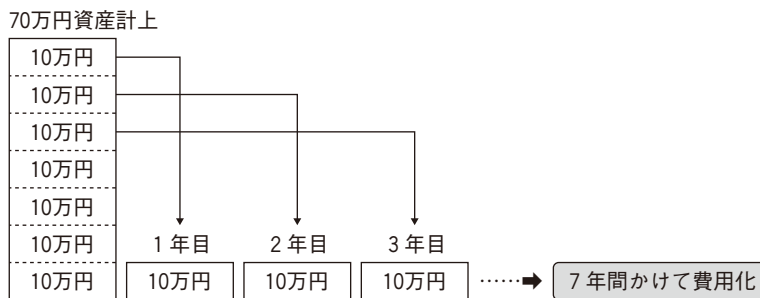
#### ① 減価償却資産と減価償却

経営活動のために使用している資産のうち、土地以外の固定資産は、収益を得るために活用する過程でその価値が減少します。この価値の減少（減価）分を決算整理において費用計上する手続きを**減価償却**といい、減価償却の対象となる資産を**減価償却資産**といいます。

資産を取得するためにかかる金額を**取得価額**といいます。減価償却資産の取得価額は、取得時に費用とせず資産に計上し、減価償却の手続きを通じて使用可能期間（耐用年数）にわたって費用化します。取得価額には、購入代金のほか、取得のためにかかった手数料、運送費、試運転費などの付随費用も含めます。

#### 【参考】減価償却の考え方

取得価額70万円の機械装置（耐用年数は7年）の場合、7年間にわたって経済活動に使用され、収益の獲得に貢献すると見積られるため、7年間かけて費用に計上します。



## ◆ 次の取引の仕訳を行きましょう ◆

700,000円のトラクターを購入し、代金は普通預金から支払った。期末に減価償却費100,000円を計上した。

(借) 機 械 装 置	700,000	(貸) 普 通 預 金	700,000
(借) 減 価 償 却 費	100,000	(貸) 機 械 装 置	100,000

※ 減価償却の記帳方法には、直接法と間接法の2種類があり、上記は直接法による記帳です。間接法を採用している場合には、減価償却累計額を用います。なお、減価償却費の計算の詳細については、第7章で説明します。

## ② 農業特有の減価償却資産

農業特有の減価償却資産には、**生物**があります。生物として減価償却資産に計上されるものは、成熟した繁殖牛、繁殖豚や、成木となった果樹など、収益を生み出すために使用している資産です。例えば、酪農業における搾乳牛は、生乳を生産することで収益を得ることに貢献しています。また、繁殖牛や繁殖豚は受胎して子牛や子豚を出産することで、成木となった果樹は実をつけることで、それぞれ収益を得ることに貢献しています。

このように、生産活動を行っている状態の家畜や果樹は、減価償却の対象となります。

## 2. 育成仮勘定

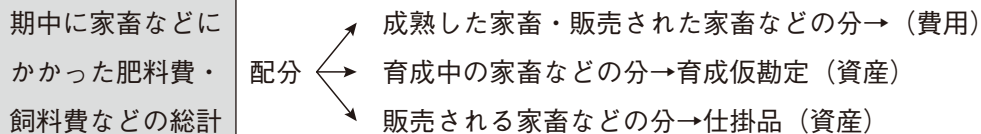
## ① 育成費の振り替え

搾乳牛や繁殖牛にするために育てている家畜や、成木とするために栽培している果樹苗の育成にかかった費用は、その時点では収益を獲得することに貢献していません。これらの費用は、将来、家畜や果樹が成熟期を迎えた後、生産活動をすることで初めて収益の獲得に貢献します。そこで、育成中の家畜や果樹にかかった費用は、それらが成熟するまでの間、**育成仮勘定**に蓄積して資産計上します。そして、成熟した時点で減価償却資産である生物へ振り替えて、減価償却の手続きを通じて費用化します。

育成のためにかかった費用は、期中においては、成熟した生物や販売される家畜などにかかった費用と一緒に肥料費、飼料費などの費用科目に計上されています。期末において、これらの費用を「成熟した家畜・果樹等にかかった費用」「育成中の家畜・果樹等にかかった費用」「販売される家畜・果樹等にかかった費用」に按分計算し、振り替えます。



## 【費用按分の考え方】



育成仮勘定に計上する金額の処理の方法には、**純額法**と**総額法**があります。

## (イ) 純額法

肥料費、飼料費、農薬費などの各科目について、育成中の果樹や家畜のためにかかった費用を集計し、それぞれの勘定科目から育成仮勘定へ振り替える方法です。この方法によると、振替後の種苗費などの各費用科目の残高は、当期中に製品の完成のためにかかった費用の純額が表示されます。

## ◆ 次の取引の仕訳を行いましょう ◆

当期において育成繁殖用肉牛として使用した費用は飼料代が345,000円、家畜薬代が180,000円だった。

(借) 育成仮勘定	525,000	(貸) 飼料費	345,000
		農薬費	180,000

(注) 育成仮勘定…資産勘定  
飼料費、農薬費…費用勘定

## (ロ) 総額法

肥料費、飼料費などの各勘定科目を減らさずに、**育成費振替高**を使用する方法です。育成費振替高は、間接的に費用全体を減らす性質をもつ勘定科目です。育成費振替高を使用すると、肥料費、飼料費などについて当期に要した金額の規模を把握しつつ、育成中の家畜のためにかかった費用の金額規模を把握することができます。現行の所得税の青色申告決算書では、この方法が採用されています。

## ◆ 次の取引の仕訳を行いましょう ◆

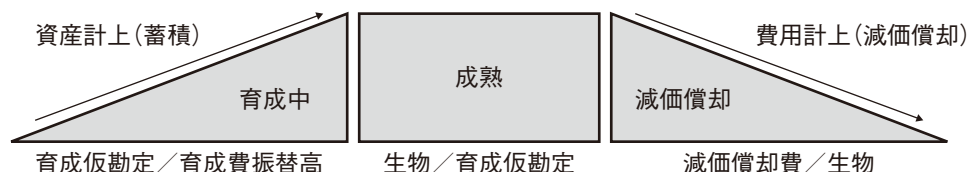
当期中に育成中の家畜にかかった費用を計算したところ、525,000円（内訳：飼料代345,000円、家畜薬代180,000円）だった。

(借) 育成仮勘定	525,000	(貸) 育成費振替高	525,000
-----------	---------	------------	---------

(注) 育成仮勘定…資産勘定  
育成費振替高…費用（の減少）勘定

## ② 資産への振り替え

成熟に達した家畜や果樹などは、育成仮勘定から、減価償却資産の勘定科目である生物（繁殖牛、果樹など）に振り替えます。



## ◆ 次の取引の仕訳を行きましょう ◆

育成中の繁殖用肉牛のうち、成熟期に達した牛の育成仮勘定残高が680,000円であった。

(借) 生 物 680,000 (貸) 育成仮勘定 680,000

(注) 生物、育成仮勘定…資産勘定

## (2) 修繕費と資本的支出

有形固定資産を使用していると、修繕、維持、改良などの費用が生じます。これらの費用のうち、固定資産の原状維持のために支出する費用は、**修繕費**として費用計上します。

また、大規模な修繕や改良によってその資産の価値が増加した場合や、その資産の耐用年数が延長する場合は、修繕とせずにその有形固定資産の価値を増加させます。この支出のことを**資本的支出**といいます。資本的支出のために要した費用は資産計上し、その資産が減価償却資産である場合には、減価償却の手続きを通じて費用化します。

## ◆ 次の取引の仕訳を行きましょう ◆

1. 畑の造成を行い、代金510,000円を現金で支払った。

(借) 土 地 510,000 (貸) 現 金 510,000

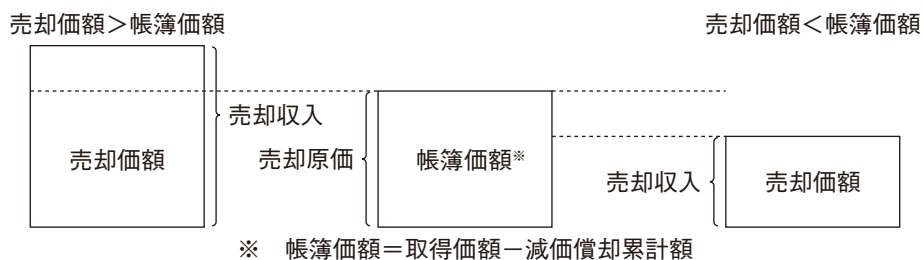
2. 畜舎の修繕費用として1,400,000円を農協普通預金口座より振り込んだ。修繕は、破損部分の原状回復のためにかかったものである。

(借) 修 繕 費 1,400,000 (貸) 普 通 預 金 1,400,000



## 2. 生物の売却

農業、とりわけ畜産業などの場合、固定資産として所有している繁殖牛などの生物を売却することが多くあります。これらの固定資産の売却は、日常的に継続的に発生するものであり事業における重要性が高いことから、通常の固定資産の売却処理とは異なり、売却による収入金額（売却収入）と売却にかかる固定資産の帳簿価額（売却原価）および譲渡費用のそれぞれを表示します。



(借) 普通預金            × × ×	(貸) 生物売却収入        × × ×
販売手数料            × × ×	
(借) 生物売却原価        × × ×	(貸) 生                    物        × × ×

## ◆ 次の取引の仕訳を行いましょう ◆

帳簿価額190,000円の搾乳牛を210,000円で売却した。代金はJ A手数料の4,000円を差し引いた206,000円がJ A普通預金へ入金された。

(借) 普通預金            206,000	(貸) 生物売却収入        210,000
販売手数料            4,000	
(借) 生物売却原価        190,000	(貸) 生                    物        190,000

(注) 生物売却原価…費用勘定  
生物…資産勘定（有形固定資産）

◇参考文献◇

- 『畜産簿記』1989年、新井肇監修・全国農業協同組合中央会編、全国農業協同組合中央会
- 『農家の節税・プロの智恵―農業所得の税金はこう計算する』1988年、鈴木武著、(株)永岡書店
- 『畜産経営者のための青色申告書の手引き－平成22年度税制改正対応』2010年、森剛一・志度和男共著、(社)中央畜産会
- 『入門 認定農業者のための経営改善マニュアル』2010年、全国農業会議所著、全国農業会議所
- 『すぐに役立つ！複式農業簿記実務テキスト』2011年、全国農業会議所著、全国農業会議所
- 『早わかり複式農業簿記』1998年、新井肇・森剛一共著、全国農業会議所
- 『平成23年度版 勘定科目別農業簿記マニュアル』2011年、森剛一著、都道府県農業会議・全国農業会議
- 『3級簿記テキスト』2011年、蛭川幹夫著、(株)キャリアック
- 『ALFA 3級商業簿記』2011年、大原簿記学校教材開発部著、大原簿記学校
- 『完全合格のための日商簿記3級テキスト』2012年、大原簿記学校著、大原出版(株)
- 『完全合格のための日商簿記3級問題集』2012年、大原簿記学校著、大原出版(株)

以 上

## さくいん

	<b>あ行</b>	期末仕掛品棚卸高	60
		期末農産物棚卸高	59
青色申告決算書	40, 99	旧定額法	87
預り金	69	給料手当	44
洗替法	86	銀行簿記	2
育成仮勘定	73, 74	繰越試算表	109
育成費振替高	74	経営成績	4
委託販売	41	経過勘定	98
一定期間の経営成績	4	決算	81
一定時点の財政状態	4	決算整理後試算表	82, 102
売上取引	41	決算整理前試算表	82, 101
売上値引	42	決算手続き	81
売掛金	53	決算日	81
売掛金管理表	56	減価償却	72, 73, 87
	<b>か行</b>	減価償却資産	72
		減価償却の考え方	72
買掛金	45, 66	減価償却費の記帳の方法	88
会計期間	4	減価償却累計額	73, 89
開始仕訳	105	現金	48
家事消費取引	43	現金過不足	49
貸倒引当金	86	現金出納帳	48
貸倒引当金繰入	86	原材料	58, 62
貸倒引当金戻入	86	建設業簿記	2
貸付金	64	工業簿記	2
課税所得計算	99	交際費	65
借入金	67	交通費	50
仮受金	68	合計残高試算表	29, 32
仮払金	65	合計試算表	29, 30
勘定	17, 34	小口現金	50
勘定科目	17, 34	小口現金出納帳	51
勘定口座	17	固定資産売却益	63
勘定式	111	固定資産売却損	76
間接法	89, 90		<b>さ行</b>
機械装置	18, 63, 73	財政状態	9
期首材料棚卸高	61	再振替仕訳	93
期首仕掛品棚卸高	60	差額補充法	86
期首農産物棚卸高	59	作業受託収入	42
期末材料棚卸高	61		

作付助成収入 43  
 雑収入 43, 49  
 雑損失 49  
 雑費 50  
 残高式 24  
 残高試算表 29, 31  
 3伝票制 26  
 仕掛品 58, 59  
 仕掛品棚卸高 60  
 事業所得 99, 114  
 事業主貸 70, 114  
 事業主借 70, 114  
 資金の運用状態 9  
 資金の調達源泉 9  
 資産 9, 17, 34  
 試算表 28  
 資産への振り替え 75  
 実地棚卸し 84  
 支払利息 45, 67, 68  
 資本金 70  
 資本的支出 75  
 資本等式 70  
 収益 5, 40  
 収益の繰延べ 94  
 収益の見越し 97  
 収穫基準 40  
 修繕費 45, 75  
 取得価額 72  
 種苗費 20, 44  
 主要簿 27  
 純額法 59, 61, 74  
 純資産 9, 10, 14, 70  
 商業簿記 2  
 諸材料費 48  
 商品 58  
 飼料費 74  
 仕訳 17  
 仕訳帳 22, 109  
 仕訳のルール 18  
 水稲売上高 41

精算表 103  
 製品 58  
 生物 73  
 生物売却原価 77  
 生物売却収入 35, 77  
 専従者給与 44  
 総額法 59, 60, 61, 74  
 総勘定元帳 17, 24  
 租税公課 52  
 損益計算書 4, 81, 111, 113  
 損益計算書等式 7

## た行

貸借対照表 9, 10, 81, 111, 113  
 貸借対照表等式 10  
 貸借平均の原理 16, 28  
 立替金 64  
 棚卸資産 58  
 棚卸高 84  
 棚卸表 82  
 単式簿記 2  
 短期借入金 67  
 長期借入金 69  
 帳簿価額 76  
 帳簿の締め切り 105  
 直接法 88, 89  
 貯蔵品 62  
 貸金手当 5, 44  
 定額資金前渡制度（インプレストシステム） 50  
 定額法 87  
 転記 19  
 伝票 26  
 得意先元帳 55  
 動力光熱費 52, 62  
 取引 14  
 取引の二重性 15  
 取引要素の結合関係 15

## な行

農業簿記 2

農業簿記の目的	4	元帳	17
農業用固定資産の耐用年数の例	91		
農具費	43, 45		や行
農産物	58, 59, 84	野菜売上高	18, 42
農産物売上高	20	有形固定資産	72, 76
農産物の棚卸し（簡便法）	58	有形固定資産の売却	76
農薬費	20	翌期繰越	105
	は行		ら行
売却価額	76	旅費交通費	48
発生主義	40		
販売基準	40		
非減価償却資産	72		
費用	4, 5, 40		
費用按分の考え方	74		
標準式	24		
費用の繰延べ	92		
費用の見越し	92, 95		
肥料費	18, 73		
複式簿記	2		
福利厚生費	48		
負債	9, 17		
普通預金	51		
普通預金出納帳	52, 53		
振替伝票	26, 27		
報告式	111		
簿記	2		
簿記一巡の手続き	14		
補助記入帳	28		
補助簿	28		
補助元帳	28		
	ま行		
前受収益	69, 94, 95		
前払費用	92, 93		
前渡金	63		
未収収益	97, 98		
未払金	45, 67		
未払費用	69, 95, 96		
元入金	35, 70, 114		



## おわりに

この本を出版するにあたり、一般社団法人全国農業経営コンサルタント協会会員の皆様の御支援、御協力に感謝申し上げます。

本書は、当協会会員の西田尚史、宮田吉弘、三谷美重子、松田孝志、安形京子、加瀬昇一、田口康生、渡辺基成、秋葉芳秀、安達長俊、木山雅人、西山由美子の各税理士が、執筆を担当し、当協会専務理事、森剛一税理士が監修いたしました。農業会計の現場で実務を担う税理士が執筆及び監修したことで、簿記の学習にとどまらず、実用的な内容とすることができました。

また、本書の出版が、学校法人大原簿記学校及び大原出版株式会社の多大なる御支援、御協力によって実現できましたことを厚く御礼申し上げます。この農業簿記テキストが、日本の農業の企業的経営の計数管理の礎になりますことを願ってやみません。

一般社団法人 全国農業経営コンサルタント協会  
代表理事 西田 尚史

—本書のお問い合わせ先—

一般社団法人 全国農業経営コンサルタント協会 事務局  
〒102-0084  
東京都千代田区二番町9-8 中労基協ビル1F  
Tel 03-6673-4771 Fax 03-6673-4841  
E-mail : inf@agri-consul.jp  
H P : <http://www.agri-consul.jp/>

---

農業簿記検定教科書 3級

---

- 発行年月日 平成27年9月1日 初版8刷発行
- 著 者 一般社団法人 全国農業経営コンサルタント協会  
学校法人 大原学園大原簿記学校
- 発 行 所 大原出版株式会社  
〒101-0065  
東京都千代田区西神田2-4-11  
TEL 03-3221-3591
- 印刷・製本 株式会社 メディオ

---

落丁本、乱丁本はお取り替えいたします。定価は表紙に表示してあります。  
許可なく転載、複製することを禁じます。

ISBN978-4-86486-070-3 C1034